

反原発・大学奪還！ 全学連大会から 9・11－11・6 世界行動へ！

【0】 本会議の獲得目標

- ①11 年後半決戦に臨み、学生の全国組織の建設へ向けて 9 月全学連大会への大結集を勝ち取ること
- ②9・11 反原発行動－11・6 世界 1000 万人大行動の爆発へ向けて、この壮大な時代を闘い抜く決意を全参加者が固めること
- ③そのために自らのキャンパスで反原発の行動を組織することに全参加者が本気になること

総じて、そのための土台として 9 月全学連大会の大成功へ向かって全学生がやる気になること

【1】 今年のヒロシマが切り開いたもの

第一に、多くの日本人がヒバクシャと化す現実がもう一度つくりだされたことに対する根底的な怒りが爆発し、ヒロシマの核への怒りとフクシマの原発への怒りが合流を勝ち取ったこと。

第二に、3・11 以降始まった巨大な民衆の爆発的行動の高揚は、ついに国境を越えてヒロシマの地で世界大会にまで登りつめたこと。

※NAZEN の結成。ビキニ被曝事件の被爆者である大石又七さん、反戦被爆者下田禮子さん、世界的反戦活動家シンディ・シーハンさんらの人的結合にある世界史的意義

第三に、11 月世界 1000 万人行動への決定的土台が創られたこと。これから 11・6 集会へ向けて世界中で統一行動が取り組まれる。すでに時代は動き出している。呼びかけ主催である私たちは、必ず日比谷公園に今年一万人を集めなければならない。

※全学連のドイツ訪問(8・8～20)

3・11 から始まる反原発闘争は政府・資本を追い詰め、多くの原発を止め、建設を中止に追い込んでいった。政府の動揺を引き出し、菅の「脱原発(→だからとりあえず今は再稼働)」という運動の分裂を狙ったペテンを引き出した。政府に対する一切の妥協を拒否し、「再稼働阻止」「全原発の即時停止」を掲げた 11 年度後半決戦が始まったのだ。

その一方での国労の深まる屈服。闘いを組織する労働組合はますます潰されている。広島も長崎も平和宣言に「反原発」を盛り込まない。時代を切り開くのは若者だ。若者が新しい運動を始めなければならない。

この時代を見据えて、運動を展開しよう。様々な形で始まり、全国に散らばっている学生の反原発運動をひとつにする学生の全国組織の建設が急務だ。全学連はそれを本気でやろうと思っている。だから今年で全学連は新執行部を打ち立てる。全学連大会の大結集へ向けて全力で闘い抜こう！

【2】 怒りと闘いの時代

<新自由主義の全矛盾が火を吹いている> 社会全体の巨大な流動化

○ドル暴落は不可避

ギリギリ債務上限の引き上げにすべりこんだ。引き上げ条件は今後 10 年で 1 兆ドルの削減。社会保障の削減へと向かうことは明らか。怒りの火は拡大する。

○戦後初のヨーロッパ圏のデフォルト(ギリシャ)

デフォルト確実にも関わらず、被害の拡大を押しとどめるために 16 億ユーロ(約 18 兆円)投入。それでもイタリアやスペインに手がかかろうとしている。

○超円高

連日にわたって 1 ドル 80 円を軽く突破している。3・11 大震災と原発事故をうけた国が買われている。現在の世界経済の根底的な危機。

○南中国海をめぐる対立の激化

資源をめぐる中国の東南アジアへの侵略と、それに対抗しての米国の介入。11・23 の砲撃戦情勢は、東南アジア全体にまで拡大した。

○高まる軍拡

中国の「空母保有宣言」と日米安保同盟の深化
→沖縄への新基地建設。新基地建設を沖縄県に「通告」

○中国の高速鉄道衝突事故

遺体ごと車両を埋め立てて証拠を隠滅する暴挙。

<3・11 情勢は何を生み出したか> 膨大な人々の価値観の変化

○政府・資本の悪辣なウソとペテンの数々

・「想定外」の言い訳

「なんでもかんでも想定すると原発を作れなくなる。だから一定のところで線を引いた」
(原子力安全委員長・元東大教授 斑目春樹)

・情報隠しと一体の「復興」「挙国一致」「がんばろう日本」

→「メルトダウン」の事実が公に知らされたのは 2 カ月以上経ってから！

※菅政権の「復興支援(3・14)」の内容 機動隊八万人の派遣

※被災地のハローワークの求人の壊滅的状態

・「20 ミリシーベルト」問題。フクシマのモルモット化

・「節電」キャンペーン

→電気が足りていることを隠してのフクシマと首都住民に対する悪質な分断

・「原発安全宣言」「政府が安全を保障し、責任をとるから原発を再稼働しろ」

→責任をとっているのは 7 次請けまでであるともいわれる非正規の労働者じゃないか！

- ・菅の「脱原発」宣言→粉碎→「減原発」へ
- ・「トモダチ作戦」による被災を利用した核戦争訓練+日米同盟の信頼キャンペーン
- ・はびこる御用学者
- 政府、マスコミ、大学、裁判所・・・社会のあらゆるものが腐っていたことが全て暴露された。

○デモも集会も知らなかった大衆の決起

6・11 の 100 万人行動－新宿アルタ前を 2 万人で占拠した大闘争。事故からわずか 3 カ月で誰も想像しなかった巨大な行動が起きた。これに代表される一連の行動が今も再稼働を阻止している！
※山本太郎「今何もしなかったら、将来の僕は僕を許せない」「芸能界の閉鎖性を打ち破って『反原発』を叫んだとき、涙が出た。解放の涙だった」
→こういう人々がこの日本中に万の規模で生まれている！

誰にも想像がつかない壮大な社会変革の闘いがはじまった。どこから決起が始まるかわからない。無数の大学の中からの決起、内部文書の暴露、佐賀県庁前行動の最中の感動的なできごと・・・

< 私たちが闘っているものはなにか> 新自由主義の導入

今の社会には「カネ・モノ」はあるが「人間」の姿がない。「経済」「エネルギー」が声高に叫ばれても被曝労働の実態は隠され、労働者が闇に葬られる。放射能の数値とデータはあっても不安に苦しむ住民の姿は無視され、ただデータだけが集められる。日経平均価格は毎日注目されても、人間の生活はそこにはない。大学には御用学者がはびこり、「競争力」や「秩序」だけが叫ばれ、学生の夢や将来はないに等しい。「学費－就活－奨学金」の 3 重苦に苦しむ学生の姿はない。あらゆるものがカネでのみ価値を測られ、人間の存在は徹底的に無視されている。政府・大企業(大資本)・大学・マスコミ・裁判所による原子カムラに支えられた原発の存在は、まさにこの社会をみごとに象徴している。
※TTP 農民 300 万を GDP の 1・5% としかみない支配階級

→補償する気など彼らはない！

被曝労働の現実 今日までに 200 万の労働者が原発で働き、50 万人が被曝した(写真家・樋口健二)
→核戦争同然の規模の被爆者を 40 年かけてこの国は生み出してきた

○1980 年代の世界的な新自由主義への突破口

- ・アメリカ(レーガン 1980～1988)
航空管制労組 1 万 1359 人を解雇(1981)。徹底的に労働運動を叩き潰した。
- ・イギリス(サッチャー政権 1979～1988)
国内最強の労組・炭鉱労働組合を潰すために石炭を 3 年分買い込む。炭鉱労組は 1 年間のストを打ち抜くが、敗北。
- ・日本(中曽根康弘 1982～1987)
国鉄分割・民営化を強行。そして派遣法(1986)制定へ。
「総評を解体することで社会党を解体し、床の間に立派な憲法を安置する」
⇒むきだしの市場原理主義である新自由主義の導入のためには、どの国でも労働運動の弱体化がその

突破口だった。

- ・総評解体→連合結成→中心労組・電気総連は労組として初めて「原発推進」を堂々と掲げる
- ・「労使協調路線」が労働組合の常識になる
- ・95 年日経連(現経団連)報告「正社員は特殊技術を持った 1 割でいい。9 割の労働者は非正規雇用にすべきだ」
今、被災地で行われているのはまさにこれだ！

○小泉政権の登場(2000～2004)による新自由主義の全面化

- 行政改革の三本柱
- 経済改革・・・規制緩和＝郵政民営化・派遣法の緩和
- 大学改革・・・国立大学独立法人化＝「産官学連携」の大規模推進
文部省と科学技術庁の統合

司法改革・・・裁判員制度＝裁判所の決定に国民のお墨付きを与えさせる制度

※国立大学独立法人化

「独立行政法人制度は、目標・計画の設定や定期的な業績評価といった仕組みを通じて国の意思を法人運営に反映させうる」(1999 年 自民党文教部会報告 座長・麻生太郎)

- ・運営費交付金制度：経営計画(どれだけカネ儲けができるか)を文科省が評価して、運営費交付金を決定する。大学の財政を国家が掌握し、大学を支配する制度
- ・経営協議会制度：委員の半分を学外者(地域の学外企業の幹部)で構成する経営協議会を作る。大学の予算権を牛耳り、学長選出にも力を持つ。

これらによって生み出されたものはなにか？

[経済改革]

- ・2008 年冬の 100 万の派遣切り→派遣村の現実
- ・下がり続ける賃金・生活水準の悪化。一方での株式市場の活況。「格差社会」は創り出された

[大学改革]

- ・富山大学の学長選挙(2009) 学内で最低得票数(5 分の 1)の西頭学長が選考会議で逆転・再任
選考会議内訳 学外委員 12 名(北陸電力社長含む) 学内委員 11 名 計 23 名
- ・全国の自治寮・サークル活動潰し
- ・法政大学の現実
ビラもまけないキャンパス、200 を超える監視カメラ・弾圧専門職員
- ・「21 世紀大学経営協会」(2005)の首都大学東京理事長・高橋宏発言
「原材料を仕入れ、加工して製品に仕上げ、卒業証書という保証書をつけ企業へ出す。これが産学連携だ」
- ・米軍マネーの流入
「今はどんな助成チャンスでもすがりたい」(ある国立大の助教 2010 年 9.8 朝日新聞)

日本の大学のほとんどに米軍マネーが流入を始めている

東京工業大 5 万ドル（09 年）／理化学研究所 6 万ドル（06 年）／大阪大 9 万 5 千ドル（09 年）／筑波大 3 万ドル（05 年）／東京大 7 万 5 千ドル（05 年）／北海道大 2 万 5 千ドル（05 年）／宇宙航空研究開発機構 5 千ドル（05 年）／名古屋大 5 千ドル（04 年）／京都大 5 千ドル（05 年）／東北大 2 万 5 千ドル（09 年）など。こうした主要大学や独立行政法人のほか、愛媛大や福井大、徳島大、山口大、東北学院大、名城大といった地方の国立大や私学も含まれている。使途について公開されているものはわずかだ。

- ・広島大学とロスアラモス研究所の連携協定
理由は大学の「発展のため」。何の発展かは答えない。
- ・福島大学と原子力研究開発機構との連携協定(7 月 20 日)
- ・科学技術庁と文部省との統合
科学技術庁：中曽根康弘と正力松太郎が中心となって内閣府原子力委員会を母体に作られた核武装のための組織→高速増殖炉(もんじゅ・常陽)の運営と再処理技術(六ヶ所村など)を手がけている
⇒2011 年度原子力予算(4556 億)内訳
経済産業省：1898 億円 文部科学省：2571 億円
核兵器開発の機関が教育を語っている！

大学の腐敗は最初から最後まで意識的につくられたということ

<私たちがつかみとってきたもの> 法大闘争の地平
○動労千葉と法大闘争 国家権力の全体重をかけた攻撃に勝ち抜いてきた闘争
[国鉄分割・民営化に対して唯一ストを構え、闘い抜いた動労千葉]
→それが 1047 名解雇撤回闘争(国鉄闘争)を生み出し、中曽根の戦略を破綻に追い込んだ。
民主党政権による国鉄闘争つぶしを乗り越え、今、それは巨大な国際連帯を創りだそうとしている。

[2000 年以降の闘いと 2006 年以来 5 年にわたる法大闘争]
東北大学：2000 年「国立大学法人化反対」の全学ストライキ
→有朋寮廃寮阻止決戦へ

2006 年以来 5 年にわたる法大闘争
ビラすら自由にまけないキャンパス、学生を原料とみなすキャンパス、批判の声を封じるキャンパスに対する怒り
118 人の逮捕－33 人の起訴－13 人の停学・退学処分を出しながら、未来を担う存在としての学生

の誇りと、大学の復権をかけた大闘争
だからこそ徹底的であり、非和解な闘争
→嵐のような弾圧と激しく斬りあって勝利しぬいてきた地平 始まりと現在
今必要なのは、こういう闘争を全国でまきおこすことだ。
ただ激しくやればいいわけではないが、徹底的に学生の誇りにかける運動、そしてそれを表現する組織＝学生自治会を全大学に建設すること
「労働者が組合をつくって闘うのは、労働者がモノではなく人間だからだ」(郵政非正規ユニオン結成宣言)→学生が団結して闘うのは、私たちが原料だからではなく、未来を背負う人間だからだ
※1948 年、学生自治会は「生活防衛」を掲げて建設されていた

【3】方針提起
○9・11「再稼働阻止・脱原発」行動－9・19 明治公園集会
9・9－10 全学連大会から 9・11 へ。私たちの力でこれを 10 万人にするべくガンガンに宣伝する。
全国 100 万人の大行動にする。9・19 明治公園集会も含めて、ここで後半決戦への突破口を開く。

○11・6 労働者集会
全世界 1000 万の反原発・反失業統一行動を大成功させる。この社会を根底からひっくり返す大闘争への総決起を！

○反原発 1000 万署名の推進
9・11－11・6 の宣伝と一体で集める。署名をするかどうか、原発を廃止するにはどうしたらいいかで学生と討論し、その中から新たな学生活動家をつくりだしていく。

○反原発の学生会議の設定・推進
反原発 1000 万署名と一体でこの会議を発展させる。地域のいろいろな反原発・脱原発闘争と協力・連帯してあらゆる運動を発展させる。

○三里塚闘争
国策と非和解で 45 年間闘い抜いた日本階級闘争の宝。絶対に守り抜こう。

○9 月全学連大会への大結集を！
これら一切の土台として、この時代を闘い抜く学生の全国組織をつくろう。法大闘争の地平を引き継いだ新たな闘いを始めたい。反原発の 1 点で全ての学生を集めたい。そしてそこから 2011 年後半決戦を創り上げよう！

以上です。ありがとうございました。